

# 序章 市川市の概況



# 序章

## 1. 位置・地勢



市川市は、千葉県北西部に位置し、西は江戸川を隔てて東京都（江戸川区、葛飾区）に相對し、東は船橋市と鎌ヶ谷市、北は松戸市、南は浦安市と接して東京湾に臨み、千葉県の中心部の千葉市と都心部を結ぶ幹線道路上にあります。

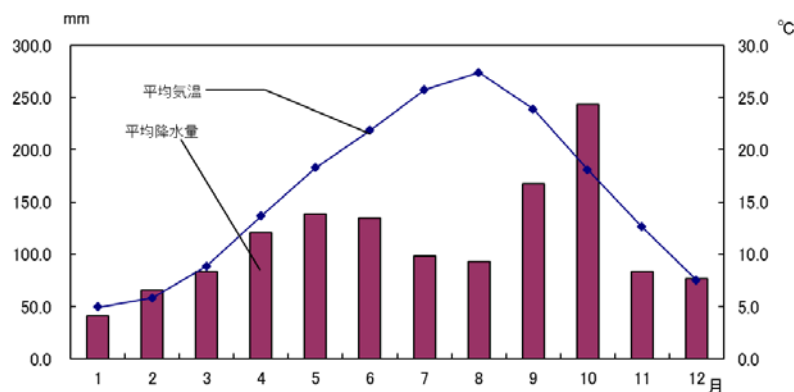
都心からは、約20kmの圏内にあり、良好な住宅都市として発展するとともに、高度経済成長期には市南部の埋立地への企業進出も盛んで、京葉工業地帯の一翼を担っていましたが、湾岸道路、京葉線などの開通により流通の基地としての役割が大きくなってきました。

地勢は、国道14号以南は標高2.5m以下の低地で、北上するに従って標高も高くなり、20mを超え北総台地へと続いています。

## 2. 気象

最近10年間（平成16年から25年まで）の年間平均気温は、15.7℃で、月別の最低平均気温は1月の4.9℃、最高平均気温は8月の27.4℃でおおむね温暖な気候です。年間平均降水量は1,346mmで秋に多く、冬に少ない傾向です。

■過去10年間の月別平均気温・降水量

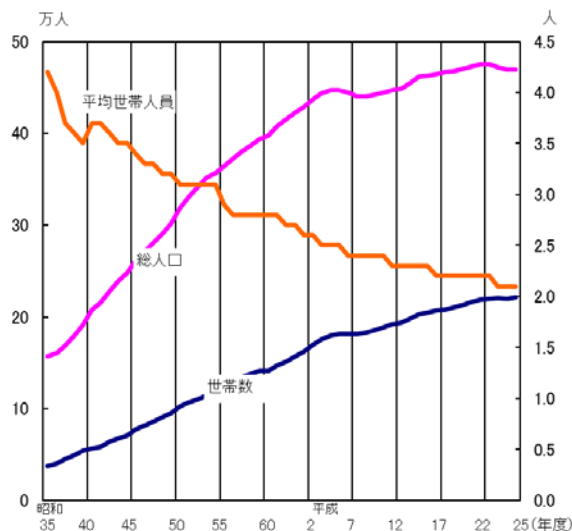


### 3. 人口

平成25年10月1日の常住人口は469,523人、世帯数220,993世帯、人口密度約8,326人/km<sup>2</sup>となっています。

都心に近く、通勤の便が良いことなど、ベッドタウンとしての条件に適しているため、昭和40年代～60年代にかけて人口が著しく増加しました。しかし、全国的に生じている少子化、世帯人数の減少と景気低迷や都市の成熟による建築動向の沈静化に伴い、近年は人口が減少に転じています。

■市川市の人口の推移



### 4. 土地利用

市制施行当時（昭和9年11月）の市域は22.95km<sup>2</sup>でしたが、その後、合併・埋立で市域が拡大し、現在は56.39km<sup>2</sup>となっています。地目別では、宅地が市域の48.6%を占めています。これは、昭和40年代以降急激に都市化し、田園や山林などが減少したためです。

北部一帯は風致地区や第一種低層住居専用地域が多く、市内の山林や農地のほとんどがこの地域に残っています。南部は土地区画整理事業により計画的な市街地が形成されています。また、臨海部の埋立地は工業専用地域に指定されています。

### 5. 産業

工業は内陸部の軽工業と、臨海部の重工業に分けることができます。内陸部は中小企業が多く、衣類、食料品、出版等の生活関連型産業や金属加工業等の事業所が住宅地に混在しています。一方、大企業を中心とした金属、鉄鋼、石油、化学等の事業所が、昭和32年から埋立てが開始された市南部の臨海地域へ進出し、京葉工業地帯の一翼を担っています。

商業は、市川駅、本八幡駅、行徳駅、妙典駅の駅前周辺等が中心となっていますが、近年、市外へ移転した工場跡地等へ大型ショッピングセンターが進出しています。

農業は、千葉県内でも優れた品質と生産量を誇るナシ栽培を始め施設野菜、花き園芸など生産性の高い都市型の農業が行われています。水産業は、ノリ、アサリを中心とした浅海養殖漁業を中心とした東京湾内の漁業が行われています。